

全ての働く人々に安全・健康を
～Safe Work , Safe Life～



中災防

製造業における職長の能力向上教育の講師養成
オンライン講座

C1 職長の職務を行うに 当たっての課題

中央労働災害防止協会

「製造業における職長の能力向上教育」の 「実行カリキュラム」の要件

科目	範囲	時間
(1) 職長として行うべき労働災害防止及び労働者に対する指導又は監督の方法に関すること	A 基本項目(必須) (A1) 職長の役割と職務 (A2) 製造業における労働災害の動向 (A3) 「リスク」の基本的考え方を踏まえた職長として行うべき労働災害防止活動 (A4) 危険性又は有害性等の調査及びその結果に基づき講ずる措置 (A5) 異常時等における措置 (A6) 部下に対する指導力の向上(リーダーシップなど) (A7) 関係法令に係る改正の動向	120分以上
	B 専門項目(選択) (B1) 事業場における安全衛生活動 (B2) 労働安全衛生マネジメントシステムの仕組み (B3) 部下に対する指導力の向上(コーチング、確認会話など)	必要な時間
(2) グループ演習	C 以下の項目のうち、1以上について実施すること。 (C1) 職長の職務を行うに当たっての課題 (C2) 事業場における安全衛生活動(危険予知訓練など) (C3) 危険性又は有害性等の調査及びその結果に基づき講ずる措置 (C4) 部下に対する指導力の向上(リーダーシップ、確認会話など)	120分以上
合 計		360分以上

「C1 職長の職務を行うに当たっての課題」の 演習の概要

1 演習のねらい

職長としての日常業務を行っている中での自分自身の課題について、グループメンバー内での経験交流を行って、相互にアドバイスし合うこと
によって、**職長としてのレベルアップ**を目指す。

2 演習の内容

- (1) 職長としての自分自身の行動の振り返り
- (2) 職長としての自分自身の課題
- (3) 職長のレベルアップ宣言

演習の具体的な進め方(1)

(1) 職長としての自分自身の行動の振り返り

「職長に期待される安全衛生管理の基本的役割」(「先取りの安全衛生管理」、情報管理(上司と部下とのパイプ役)、「部下の育成」)、「生産現場における職長の職務(具体例)」等に照らして、職長としての自分自身の日常の職務を振り返った上で、「職長として十分に役割を果たすことができていると思うこと」、「職長としての自分自身の課題」等を、グループ内でも出し合う。

【具体例】

- ① 職長として十分に役割を果たせていると思うことは？
 - 何か工夫していることはあるか？
 - 他のメンバーに推奨できる点はあるか？
- ② 職長としての自分自身の課題は？
 - 困っていることはあるか？
 - うまくできていないことはあるか？ その原因は何か？

演習の具体的な進め方(2)

(2) 職長としての自分自身の課題についてのグループ内での相互アドバイス

職長としての自分自身の課題(職長として困っていること、うまくできないこと)の解決のために他のメンバーのノウハウ・経験を取り入れることが考えられるものについて質問等を行って、グループ内で相互にアドバイスを行う。

(3) 職長のレベルアップ宣言

①(研修後に自職場に戻って)職長に期待される役割をより一層レベルアップさせて果たしていくための**自分自身の行動目標**を作成する。

② グループ内で各自発表

ア Aさん

①職長の職務を行うに当たった課題	ツールボックス・ミーティングで、安全の急所を突いた作業指示がうまくできない。
②他のメンバーからのアドバイス	①危険の見つけ出し方 ②コーチング
③職長のレベルアップ宣言	毎日の作業前の危険予知(KY)活動により労働災害ゼロを目指します。

演習の具体的な進め方(3)

イ Bさん

①職長の職務を行うに当たっての課題	職場巡視の際に、不安全行動を見つけても、部下は年長者であり、快く受け入れてもらえない。
②他のメンバーからのアドバイス	①対話型パトロール ②年長者とのコミュニケーション
③職長のレベルアップ宣言	不安全行動に対して相互に注意できる職場作りを目指します。

ウ Cさん

①職長の職務を行うに当たっての課題	自分の職場では、時々ヒヤリ・ハット事例が見られ、現実の労働災害がいつ起こるのか不安で仕方がない。
②他のメンバーからのアドバイス	①ヒヤリ・ハット活動 ②危険予知訓練(KYT) ③職場安全衛生実行計画
③職長のレベルアップ宣言	ヒヤリ・ハットをゼロにすることを目指して職場の安全衛生実行計画を作成して、労働災害防止活動を展開します。

演習の目安時間(90分程度)と進め方

個人	グループ	全体	目安時間	内容
		○	10	・進め方の説明
○			5	・自己紹介メモ作成
	○		10	・自己紹介、役割分担を決める。
○			10	・(受講した講義内容等を踏まえて)事前に作成してきた自分の「職長の職務上の課題メモ」について、修正、項目の追加を行う。
	○		35	・「職長の職務上の課題メモ」にもとづき、順番に、各自の課題を発表説明する。 ・質疑応答、アドバイス、解決策を話し合う。
○			10	・今後のレベルアップ宣言を記入 ・研修で学んだ内容や職長の役割や職務の具体例、受け取ったアドバイスや他の職長の発言内容などから、今後の自分自身の行動目標を設定し、記入する。
	○		10	・レベルアップ宣言の発表、コメント

演習の指導に当たっての留意事項（１）

グループ演習において、メンバー相互間で意見交換を行いながら、グループとしての結論を得る過程で、受講者各自が職場に戻って活かすことができるものを必ず取得させることをねらいとして指導する。

1 事前準備

事前の案内と併せて、討議するテーマを伝えて、宿題として、あらかじめ受講者各自において、①現在抱えている問題点、②その解決に向けた改善案等の整理を行った上で、演習に参加する。

演習の指導に当たっての留意事項（2）

2 演習の実施時

(1) 社内での研修

現在、社内で行っているテーマについて、グループ内の職長全員に自職場で抱える問題点・課題について発言を促す中で、改善案を探り、**自職場に戻って改善につなげる**ことができるように指導する。その際、職長が自身で実施できる事項、上司に提案する必要がある事項に分けて、実行につなげることができるように指導する。

(2) 公募型の研修

職場の状況が異なる多種多様な企業から参加している職長による共通テーマによるグループ討議となるため、各企業によって異なる職場の状況や取組事項等を紹介し合いつつ、**相互にアドバイス**し合う中で、**改善に向けてのヒントをつかむ**ことができるように指導する。

演習の指導に当たっての留意事項（3）

3 職場に戻っての実施に向けて

グループ演習の最後に、自職場に戻って、自分自身で取り組んでいく内容を「今後のレベルアップ宣言」として宣言させる。

その上で、「今後のレベルアップ宣言」を自職場に持ち帰った上で、確実な実施につなげることができるように、自職場の上司への①研修直後の「今後のレベルアップ宣言」の内容の報告、②その後の数ヶ月間程度の間の「今後のレベルアップ宣言」を具体化する取組状況の定期的な報告等をアドバイスする。

特に、社内での研修は、職長の担当職場での改善に繋がる有効なものになることから、社内での研修の実施に当たっては、実践的な研修となるように工夫していただきたい。

ご視聴ありがとうございました。

引き続き、「C2 事業場における安全衛生活動（危険予知訓練など）」の講座をご視聴ください。